

授業科目名	対象学科・専攻	年次	期別
進路指導の理論と指導法 Theory and Method of Career Consulting	児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	前期
科目	施行規則に定める科目区分又は事項等		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員名
			中原 隆
講義	2	必修	担当形態
			単独
全体目標及び概要			
<p>小学校・中学校における進路指導の理論や発達段階に応じた具体的な指導方法について、自らの教育体験を素材として活用しながら、体系的・組織的に学ぶ。</p> <p>近年、キャリア教育への転換が図られていることから、進路指導をキャリア教育の視点から再構築していく。</p>			
一般目標及び到達目標			
<p>(1) 進路指導がキャリア教育として再構築しているわけを、時代や社会の変化から理解する。</p> <p>① 具体的事例をもとに、進路指導とは何かが説明できる。</p> <p>② 進路指導の目的が大きく転換してきた理由を学習指導要領の改訂から説明できる。</p> <p>③ ニート・フリーター問題の現状と課題から、キャリア教育誕生の必然性を説明できる。</p> <p>④ キャリア教育の手引きを活用し、キャリア教育とは何かを説明できる。</p> <p>⑤ 進路指導やキャリア教育にかかわる法令について、その主な内容を説明できる。</p> <p>(2) 学校教育における各領域の取組を進路指導の観点からとらえ、教育的価値を理解する。</p> <p>① 各教科を学ぶ意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。</p> <p>② 道徳でよりよい生き方を探る意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。</p> <p>③ 学級活動の果たす役割を、キャリア教育と関連づけて説明できる。</p> <p>④ 児童会・生徒会活動を体験する意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。</p> <p>⑤ 学校行事の存在意義を、キャリア教育と関連づけて説明できる。</p> <p>⑥ 総合的な学習の時間の優れた実践を、キャリア教育と関連づけて説明できる。</p> <p>⑦ 高等学校の進路指導（キャリア教育）の現状と課題を説明できる。</p> <p>(3) 自分自身の進路の足跡を見つめ直し、将来への展望をもつ。</p> <p>① 幼児期から学生時代まで、キャリア教育の観点で自己の経験を書き出すことができる。</p> <p>② これからの自身の生き方をはっきりと展望することができる。</p>			

授業内容と進め方		
回数	授業内容	到達目標の番号
1	オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。 「進路指導とは何か」が明確になる。	(1)-1)
2	今までの進路指導とこれからの進路指導の違いを、学生同士の経験や学習指導要領の変遷と関連づけて理解する。	(1)-2)
3	ニート・フリーター問題を考えることで、進路指導におけるキャリア教育誕生の必然性を理解する。	(1)-3)
4	キャリア教育の手引を参考に「キャリア教育とは何か」を学ぶ。	(1)-4)
5	進路指導とキャリア教育の関係を整理し、それらの教育に関する法的根拠を理解する。	(1)-5)
6	小中学校での進路指導（キャリア教育）を「各教科での取組」から考えることで、教科を学ぶ意味を理解する。	(2)-1)
7	小中学校での進路指導（キャリア教育）を「道徳での取組」から考えることで、道徳を学ぶ意味を理解する。	(2)-2)
8	小中学校での進路指導（キャリア教育）を「特別活動での取組①学級活動」から考えることで、学級活動の価値を理解する。	(2)-3)
9	小中学校での進路指導（キャリア教育）を「特別活動での取組②学級活動」から考えることで、学級活動の価値を理解する。	(2)-3)
10	小中学校での進路指導（キャリア教育）を「特別活動での取組③児童会・生徒会活動」から考え、その価値を理解する。	(2)-4)
11	小中学校での進路指導（キャリア教育）を「特別活動での取組④学校行事」から考え、その価値を理解する。	(2)-5)
12	小中学校での進路指導（キャリア教育）を「総合的な学習の時間①」から考え、その価値を理解する。	(2)-6)
13	小中学校での進路指導（キャリア教育）を「総合的な学習の時間②」から考え、その価値を理解する。	(2)-6)
14	小中学校と比較することで、高等学校の進路指導（キャリア教育）の現状と課題について理解する。	(2)-7)
15	自分自身の進路選択の足跡を振り返ることで、自己実現に向けて歩む自分の将来を見つめる。	(3)-1)、(3)-2)
成績評価方法	授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、定期試験（知識・理解）30% 課題・レポート（思考力・判断力・表現力）20%	
テキストおよび参考文献	テキスト：「進路指導の研究」山口短期大学 参考文献：文部科学省「キャリア教育のススメ」東京書籍 文部科学省「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」教育出版	
メッセージなど	急激な社会の変化で、進学や就職に自己を見失いがちな時代です。 そういう時代の進路選択について、教える立場からの理解だけでなく、自分自身のキャリア発達も見つめながら学んで行きましょう。	